

平成30年
(2018)

あわらし観光白書

令和元年5月

あわらし観光振興課

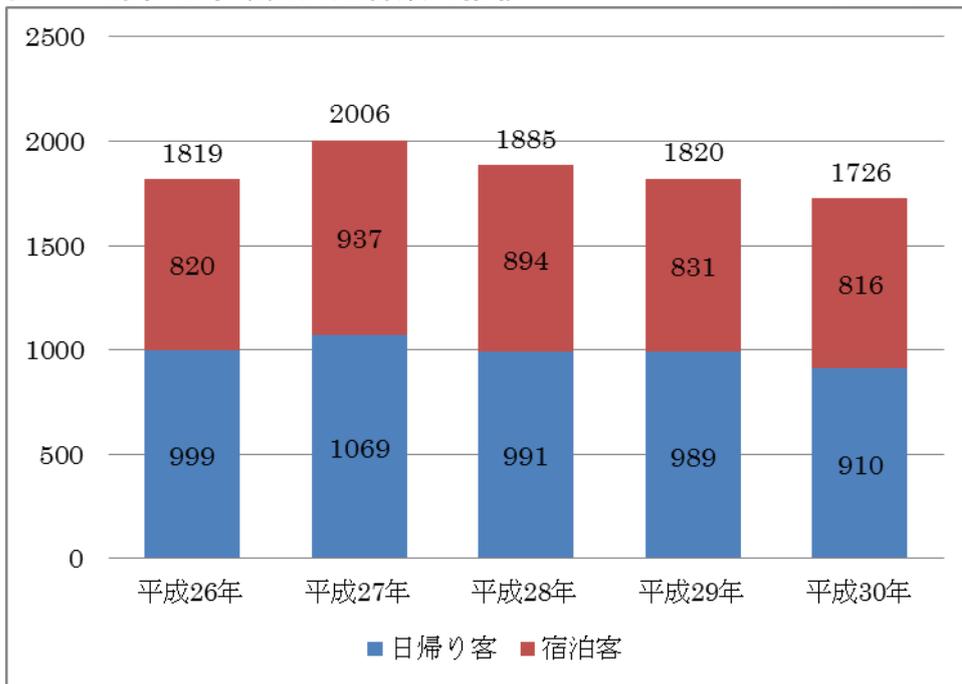
平成30年あわら市観光白書

1 平成30年実績

平成30年1月から12月までの1年間にあわら市を訪れた観光客は、1,726,500人（対前年比▲93,700人、5.1%の減）で、このうち宿泊客は816,300人（同▲15,100人、1.8%の減）、日帰り客は910,200人（同▲78,500人、7.9%の減）と、北陸新幹線金沢開業後4年目を迎え、開業前年を下回る結果となった。

図1：あわら市観光入込客数の推移

（単位：千人）



I 観光地別観光客数

観光地別では、福井県随一の温泉地であるあわら温泉の825,500人が最も多く、次いで農産物直売所きららの丘の201,200人、芦湯140,100人、ゴルフ場126,000人、金津創作の森103,200人、北潟湖畔86,700人、その他（セントピアあわら、湯けむり横丁、吉崎御坊、aキューブ他）243,800人となっている。全体的に前年の入込客数を下回る施設が多い中、金津創作の森やaキューブは増加に転じた。

II 発地別観光客数

発地別内訳で見ると、県内客の落ち込みの割合が大きく、県内客は52%の899,200人、県外客は48%の827,300人となり、おおむね半々に分かれた。

県外客の内訳をみると、関西方面（※1）からの観光客が324,600人（県外客の39.2%）と最も多く、次いで中京方面（※2）の169,300人（同20.5%）、関東方面の123,900人（同15.0%）、北陸（石川・富山）方面の122,700人（同14.8%）の順となり、関西・中京方面からの観光客が県外客全体の60%を占めている。北陸新幹線金沢開業後に増加した関東方面からの観光客の割合は、全体の客数の割

合が減少した中でも、昨年と比較すると0.2ポイントの増となった。

(※1) 関西方面とは、大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の2府4県

(※2) 中京方面とは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県

2 平成29年との比較

I あわら温泉宿泊客発地別内訳の変化

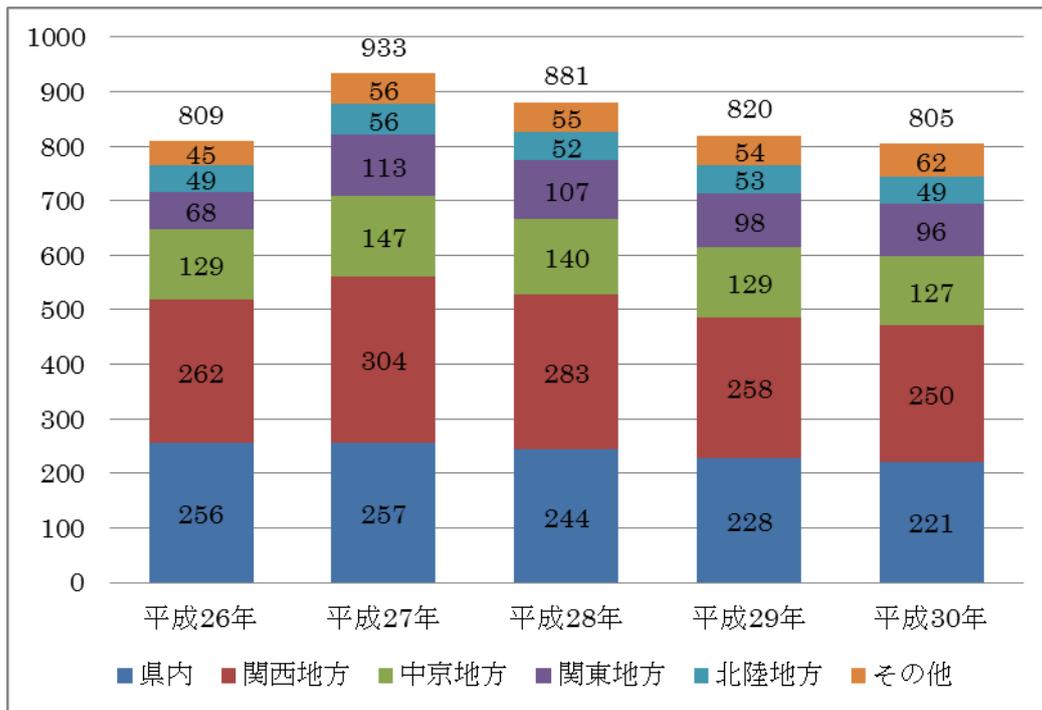
あわら温泉の宿泊客は805,300人で、前年より1.8%の減少となった。昨年と比較すると、県内客は3.3%の減、県外客は1.2%の減と県内客の方がより減少数が大きい。県外客では、関西地方が2.9%の減、中京地方が1.7%の減、関東地方が1.7%の減、北陸地方が7.9%の減と軒並み減少している中、北陸地方の減少が大きいのは大雪の影響によるものだと考えられる。

一方、その他地方は唯一増加しており、15.6%の増となっている。その他地方のうち、上信越地方以外の地域及び海外からの観光客が増加していることから、福井国体の影響のほか、国内外におけるあわら温泉の知名度が高まってきたものと考えられる。

昨年は、2月の大雪により1万1,000人以上の宿泊キャンセルが発生し、大きなダメージを受けた。また、豪雨や台風など度重なる災害が発生し、特に豪雨災害があった7月は前年同月比10.8%の減と大きく減少している。そのほか、5月に老舗旅館が火災で焼失し休業状態となったことや、団体旅行から個人や少人数のグループ旅行へシフトするなど旅行形態の変化により、1部屋あたりの宿泊人数が減少していることも要因の一つと考えられる。

図2：地域別あわら温泉宿泊者数の推移

(単位：千人)



II 訪日外国人観光客（インバウンド）について

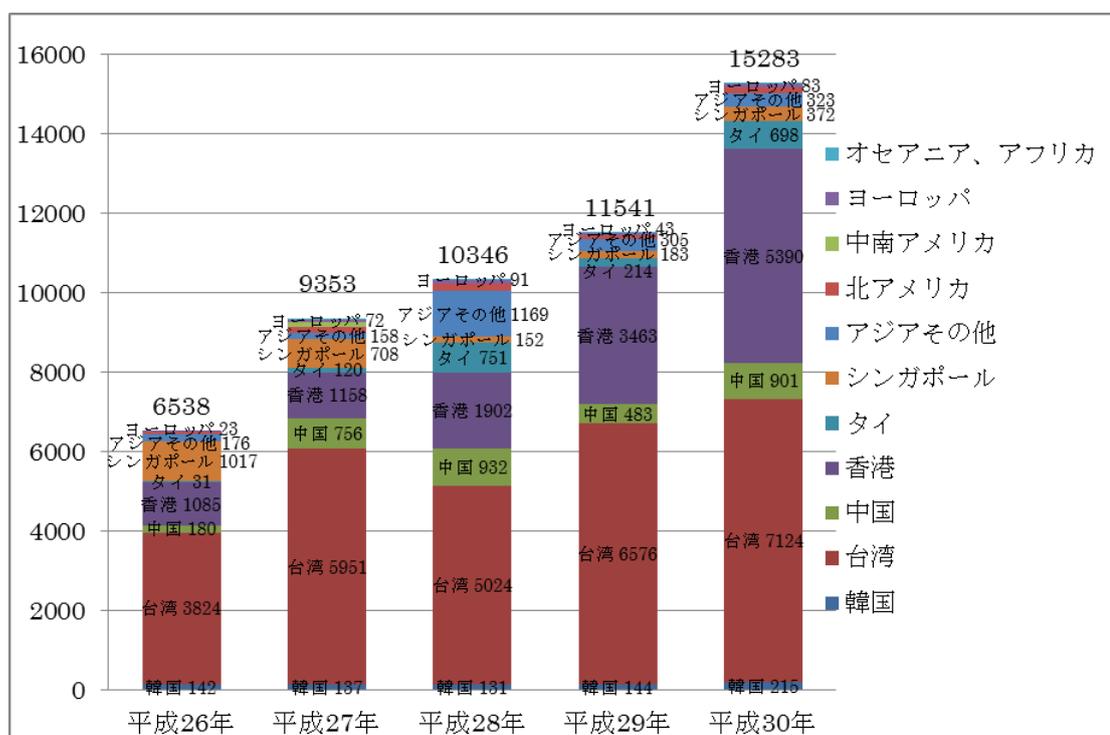
あわら温泉の外国人宿泊者は15,283人と、32.4%増加しており、前回と比較して21ポイントの増となっている。しかしながら、日本政府観光局（JNTO）が2019年1月に発表した2018年の訪日外国人客数（推計値）は、前の年に比べて8.7%増の3,119万2,000人と過去最高となったことからみると、あわら温泉の宿泊者数はまだまだと言わざるを得ない。

国・地域の内訳では、台湾からの観光客が最も多く、次いで香港、中国、タイからの観光客が高い割合を占めている。昨年と比較すると、台湾が全体の6割を占めていたのに対し、今年も増加はしているものの、割合は5割未満に留まった。

一方で、香港からの観光客数の増加が顕著であり、香港—小松間のチャーター便就航の影響が大きいものと考えられる。また、タイからの観光客数が226%の増と大幅に増加したことから、平成28年度から開始した広域連携によるインバウンド推進事業のプロモーションの効果が一定程度出ているものと考えられる。

図3：訪日外国人国別あわら温泉宿泊者数の推移

（単位：人）



III 主な観光地の状況

各観光地においては、金津創作の森とaキューブを除いては減少傾向にあり、大雪や台風、大雨など度重なる災害による影響が大きいと思われる。昨年より20.2%の減となったセントピアあわらは各災害の際に営業時間を短縮していた日が多く、顕著に影響が出たものと考えられる。また、28.6%の減となったきららの丘については、大雪により農業用ハウスが倒壊するなど農産物の生産に大きな被害が出ており、季節ごとの農産物が供給できなかったことが原因と考えられる。

一方、金津創作の森は8.5%の増となっており、「金津創作の森開館20周年記

念事業」による大規模企画展の開催など、大きな盛り上がりを見せていたことが要因と考えられる。また、73.4%の増となった a キューブにおいては、8月に施設内のカフェがリニューアルオープンし、県内外における認知度が上がってきたためと考えられる。

また、昨年は「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」が開催されたことにより、37,800人があわら市を訪れ、大いに賑わいを見せた。また、選手や監督など国体関係者があわら温泉に宿泊したことにより、あわら温泉の入込客数は、ほとんどの月が減少傾向となっている中、同大会が開催された9月は前年同月比10.4%の増、10月は22.1%の増となった。また、10月の芦湯や湯けむり横丁の入込数も増加していることから、こちらにも国体開催による効果があったと考えられる。

IV 総合的評価

観光地ごとの状況は以上のとおりであるが、市全体で見ると、入込客数及び宿泊客数が共に北陸新幹線金沢開業の前より落ち込むという厳しい結果となった。北陸新幹線の利用者数が初の前年超えをしたにもかかわらず、あわら温泉だけでなく、周辺温泉地の宿泊客数が軒並み減少していることを考えると、金沢から一歩先へ呼び込む施策がまだ不足していると考えられる。今後は、金沢に近いことを強みとしたプロモーションをより強化し、関東方面からの誘客をさらに推進する必要がある。

また、北陸新幹線の敦賀延伸によりアクセスが不便になる関西方面や中京方面からの観光客の減少が予想されることから、併せて関西・中京方面への新たなPR施策を検討することが課題の一つとして挙げられる。

3 今後の対応

目前に控えている令和5年の北陸新幹線芦原温泉駅開業を踏まえ、これまでの関西圏・中京圏に加え、関東圏、さらには海外からの観光客を迎え入れるため、『あわら市観光振興戦略』を本年4月に策定した。「和心あふれる 国際的な感幸地」というコンセプトのもと、以下の7つの戦略を掲げ、各戦略の方針に沿って16の施策、52の事業を実施し、観光交流人口の増加と観光消費額の拡大を図る。

- I 「あわらならではの」の魅力の磨き上げ
- II 地域の個性を活かした魅力的な観光エリアと拠点の創造
- III マーケティングに基づいた誘客拡大
- IV ターゲットに伝える戦略的な情報発信と営業活動の展開
- V 組織や地域を結ぶネットワークの整備
- VI 観光振興を担う人材育成と推進体制の充実
- VII 世界から招く受入環境の整備

観光振興戦略の計画期間は平成31年度から5年間としており、初年度となる本年度は芦原温泉駅周辺整備やインバウンド誘客の推進をはじめ、観光素材の掘り起しや磨き上げなどを戦略のロードマップに基づき、計画的に実施していく。

また、事業の進捗状況の確認や効果検証を行い、社会経済情勢の変化や外部有識者の意見を踏まえながらより効果的な事業の推進に努める。